

JIA 北海道支部 活動報告 2025

■総務グループ

…グループリーダー 中舘誠治

1) 2025年度 通常総会

下記の通り通常総会を開催、各議案全てに承認を得ました。

日時：2025年5月16日（金）15:00-15:40 会場：設計会館8階会議室A
会員数 199名 出席者 39名 委任状 32名 合計 71名の参加（定足数 1/5 24名を満たす）

総会終了後日本建築家協会 会長 佐藤尚巳 氏による講演を開催

2) 2025年度 意見交換会

総会后、会場であるホテルマイステイズ札幌アспенへ移動、意見交換会を開催

3) 事務局業務および、支部会計の管理

各四半期決算の会計審査および、幹事会への報告を行なった。

■広報グループ

…グループリーダー 堀尾 浩

支部広報委員会活動

- ・2024年度より検討を進めていた、「HOKKAIDO ARCHITECTS の横顔」を会員紹介を主とする会報誌へ見直しする案を確定した。
- ・新構成の冊子制作はデザイン協議会依頼、デザイン、印刷ほか業務全般を委託することを決定し
- ・新会報誌は、年度内3冊を発行、内一冊に個人紹介ページを加える計画とされて。
- ・2025年度は、No.1, No.2の2冊を発行し、2026年度も引き続き発行を続けることを確認した。

本部広報委員会活動

- ・毎月1回開催される本部広報委員会（Web会議）に出席する。
- ・年一回、秋に東京で開催される広報意見交換会に出席した。

■住宅グループ

…グループリーダー 名古屋 英紀

2025年10月31日 HAI ヒココニシアーキテクチュア 2階にて、第1回住宅トークセッションを開催しました。

建築家同士で互いの作品を深く知り理解する場が失われつつある近年、自分以外の建築家が住宅を設計する上での考えやその背景を見聞きし自由に意見を交わし合う事で、自らの設計にも役立つ重要な要素を発見することを目的とした意見交換会です。当日は飲食を楽しみながら、発表者10名を含む参加人数36名がそれぞれの住宅建築作品についてざっくばらんに語り合う大変有意義でディープな時間となりました。

■本部災害対策会議

…災害対策グループ グループリーダー 菅原秀見

毎月1回開催される本部災害対策会議（Web会議）に出席し各支部の災害対応について情報共有を行った。今年度はJIAとしてのBCP（業務継続計画）を取りまとめ、災害対策ネットワークの更新を行った。また、応急危険度判定の机上訓練など災害対策にかかわる各種セミナーに参加し、建築士会など他団体との交流を図った。

■本部国際委員会

…国内外交流グループ 本部国際委員 鳥海良晴

本部国際委員会（毎月1回、Web会議）に出席し、UIAを含む各国の建築家団体との交流活動内容の共有、Webinarの企画などについて協議した。

JIA千葉大会に本部国際委員として出席し、AIA（米国）、ASA（タイ）、KIA（韓国）、KIRA（韓国）のJIAの海外提携協会からの招待ゲストを接遇した。

■環境グループ

…グループリーダー 櫻井百子

2025年11月28日、bokashiBaseにおいて、JIA環境グループと建築士会札幌支部 女性委員会の共催で「JIA&建築士会情報シェアリング企画 北海道の素材をつかいたい！」を開催した。

北海道の素材を愛する建築家とその素材を丹精込めて作っている方々が、素材を活かしたい熱い想いや生かす手法、素材が製品になるまでのストーリーなどをシェアしつつ、美味しい食事を囲みながら大盛況のうちに終えることができた。初の試みだったが、定期的に継続していけると良いと考えている。

1) 北海道建築設計会議への参加

建築設計関連11団体（10団体+新聞社）で構成される会議体で、年間6回開催された。建築設計の団体に加え、設備設計、構造設計、積算などの団体で構成され、幅広い情報交換の場となっている。本年度の会議は対面で行われ、議題としてはコロナやウクライナ戦禍の影響によるコスト増加、工期遅延など団体ごとに抱える課題の共有に多くの時間を費やした。また、継続のテーマである報酬問題、環境問題、BIM活用についても議論を行った。



■住宅等連携会議 2025年度 活動報告書

…2026.3.27 野村 和也

定例会議 月1回（2025.5月～毎月開催）

- ・月に1回のペースでzoomにて各支部から1名ずつ集まり、住宅等小規模向けの建築家の活動について議論をしています。

2025年度の主な活動実績

①地域で活躍されている建築家の紹介

建築家インタビューという形で、地域で活躍されている建築家を住宅等連携会議のホームページ上で紹介する活動を行っています。

北海道支部では櫻井百子さんにインタビューを行い、現在web上への公開準備中です。

③建築家、新しい家族をデザインする

JIA 建築家大会 2025 千葉のオンラインイベントとして行いました。

パネリストに、藤原徹平さん、洞口苗子さん、吉永規夫さん ファシリテーターに、吉本学さんをお迎えし、2時間のイベントをzoomにて行いました。

④コンペ・プロポ参加支援企画

小規模事務所が参加できるコンペ・プロポの成功例をピックアップして、行政支援の事例などを共有し、今後の活動の参考にできるような活動をしています。

⑤BIMについて

本部からの依頼もあり、小規模事務所へのBIM導入の促進を図るため、BIMに関する座談会や勉強会を企画中です。

■本部CPD評議会

…CPD評議会委員 中藪則喜

毎月1回開催されるCPD評議会（Web会議・プログラムの審査など）に出席するほか、毎月半ばのプログラムメール審査を委員交代で担当しています。

2025年5月からQRコードを活用したCPDの出席管理サービスが運用開始となりました。このサービスは、単位付与に関する誤記の防止や時間の短縮化、事務作業の軽減につながり、プロバイダー・参加者共にメリットの大きなシステムです。参加者はスマートフォンに一度登録することで簡単にCPD申請ができますので、ぜひ活用いただきたいと思います。

以上

■建築大賞グループ

…グループリーダー 石塚 和彦

第4回JIA北海道建築大賞2026の開催に向けて、キックオフミーティング（Web会議）を開催した。また、審査委員の依頼・審査スケジュールの調整を行い、募集要項を作成した。

第7回 HK デザインアワード「〜とともにある鉄」を、前回に引き続き北海道大学の松島先生を審査委員長にお迎えし、以下の要領で行いました。

2025 年 7 月 1 日～ 募集開始
7 月 31 日 審査内容打合せ・審査員顔合わせ
9 月 30 日 応募締切
10 月 7 日 一次審査 場所；日鉄鋼板株式会社北海道支店

- 応募総数 23 作品の中から、6 作品を選出
11 月 3・13・17・25 日 現地二次審査
- 現地審査後、日鉄鋼板株式会社北海道支店にて最終審査

最終審査を経て、以下のとおり、受賞者を決定いたしました。

最優秀賞 作品名 狸上るビル
設計者 千葉 拓也、高嶋 一穂

優秀賞 作品名 新札幌アクティブリンク
設計者 出口 亮、渡邊 竜一、池邊 慎一郎

入賞 作品名 市隠
設計者 中山 眞琴

入賞 作品名 れんがの家
設計者 山本 郁江、住谷 素子、垣田 淳

入賞 作品名 奥尻町総合庁舎
設計者 菊池 規雄、高橋 幸宏、山脇 克彦

入賞 作品名 地と橋
設計者 宮城島 崇人

上記結果は、2025 年 12 月上旬に JIA 北海道支部の web 上に公開し、2026 年 3 月上旬には HK デザインアワード NEWS として、各審査員の皆様の選評と合わせて公開いたしました。表彰式は、2026 年 5 月の JIA 北海道支部総会後の意見交換会で行います。

■道東地区グループ

…グループリーダー 石井 孝行

2025年度 道東地区 活動報告

■ 6月12日

法人協力会商品説明会、スライドレクチャー、意見交換会開催。

参加法人協力会は19社、各社ブースを設け来訪者に商品説明を行うスタイルで開催。

16:00よりアトリエブランク菅沼社長によるスライドレクチャーを開催。

多くの参加者が見受けられた。

意見交換会には、道東地区正会員5名が参加。

商品説明会来場者数：50名

■ 9月13日

月曜塾設立40周年記念講演（JIA道東地区 共催）

建築家 圓山 彬雄

「北海道だから創れる（穏やかな温かさの内部空間）の建築」

本の森厚岸情報館 2階視聴覚室にて

■11月7日～8日

JIA建築家大会2025千葉 に釧路より正会員1名参加。

■月曜塾

総会・新年意見交換会 1月27日

例会 3月10日・4月14日・7月14日・9月8日

セミナー 5月12日 カンディハウス森林セミナー

見学会 6月20日 旧岩保木水門清掃・見学会

塾展 10月11日～13日 月曜塾建築展 旧五十嵐邸にて

懇親会 花見 5月31日・忘年会 12月13日

■2025年度 旭川地区会 活動報告

…グループリーダー 石田純枝

■旭川地区会会議（展覧会打合せ、作業参集含む）

【開催】 4/9、4/10、4/22、5/7、5/21、5/23、6/3、6/16、7/17、8/26、9/1、9/9、9/22、
10/2、10/22、10/29、11/12、12/4、1/8、1/9、1/21、2/6、2/21、3/17 全14回

■「平和通買物公園」展 開催

会 期	6 / 17 (火)～7 / 13 (日)
会 場	中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館ステーションギャラリー
入場者数	約1000人
ギャラリートーク開催	6/21 (土) 13:30～「これまで」の買物公園 6/28 (土) 13:30～「これから」の買物公園 「Asahiakwa School 63.64」と併催

■Asahikawa School

□ vol.62 / 2025年4 / 30 (水) 18:00～19:30

「JIA リフレッシュセミナー2024 参加報告」 スピーカー：山田英貴（旭川地区会）

【参加人数】旭川地区会メンバー他10名 + リモート参加2名

□ vol.63 / 2024年6 / 21 (土) 13:30～

「平和通り買物公園」展 トークイベント スピーカー：大西氏、佐々木氏、大矢（旭川地区会）

【参加人数】20名

□ vol.64 / 2024年6 / 29 (土) 13:30～

「川からのまちづくり展」トークイベント スピーカー：四戸氏、村田氏、長尾氏

【参加人数】20名

■協力会商品説明会への協力

2023年7月21日（木）13:30～16:30

大雪クリスタルホールにて開催

士会、事務所協会、施工業者等への告知、協力

大田氏の講演会 参加

懇親会 井泉旭川 協力会18名、旭川地区より8名、支部（札幌）より3名参加

■JIA スクール グループ

…森 徳彦

2025 年度、JIA スクールは、下記 2 回の開催をした。

第 1 回 JIA スクール

日 時 2025 年 9 月 5 日
講 師 圓山彬雄、山本憲治（會澤高圧コンクリート株式会社）
「會澤高圧コンクリート深川工場 かたちを超えて創造する力」
場 所 ユビキタス協創広場 U-cara
参加者 33 名

第 2 回 JIA スクール × 法人協力会『商品説明会』合同企画

日 時 2026 年 2 月 4 日
講 師 小篠隆生（新渡戸遠友リビングラボ理事長・東京電機大学非常勤講師・前北海道大学准教授）
タイトル 「建築、まちづくりや新渡戸遠友リビングラボについて」
場 所 ユビキタス協創広場 U-cara
参加者 50 名
商品説明会参加者 90 名

■職能業務グループ

…グループリーダー 河野竜夫

1) 北海道建築設計会議への参加

建築設計関連 10 団体（9 団体＋新聞社）で構成される会議体で、年間 6 回開催された。建築設計関連団体に加え、設備設計、構造設計、積算などの団体で構成され、幅広い情報交換の場となっている。本年度会議は対面で行われ、以下に示す会議の原点へ立ち返り、

- ①設計に係る企業の社会的認知の向上（対外的活動、業界のアピール）
- ②設計に係る企業の地位の向上（官に対する具申、民）
- ③設計にかかわる企業の社会的貢献（役に立つ公的活動）
- ④上記に係る様々な情報交換と活動

以上の主旨のもと、議題として建築設計に係る職能の認知・活動媒体として実効を挙げるための議論を交わした。結果として 2027 年 1 月に開催される「建設産業ふれあい展（北海道 / 札幌市共催）」へ会議体として参加し、本会議参加各団体が各々新たなアクションを始めるための場を確保するよう調整を行って、参加に向けた準備を始めた。

■卒業設計グループ

リーダー 米花 智紀
全国委員 米花 智紀
メンバー 伊達 昌広、前田 芳伸
当日協力 野村 和也

1) JIA 全国学生卒業設計コンクール 2025

2025年6月28日(土) 建築家会館、JIA館(東京) 現地審査 (参加:米花)

全国より51作品(北海道3作品)が出品。オンラインでの審査及びYoutubeでの2次審査ライブ配信を行う。作品集を編纂(協賛者へ配布)

(道内結果) 岸本涼花(室蘭工業大学) 最終審査まで進出(11選)

準備会議は通年にて年10回程度開催。審査当日は東京での開催業務にあたる。(参加:米花)

2) JIA 北海道学生卒業設計コンクール 2026

2026年3月9日(月)北海道芸術デザイン専門学校 ホール (参加:米花・伊達・前田・野村、小西支部長)
対面での公開審査を開催。道内各学校より登録27名あったが、当日までの参加辞退及び病欠もあり、最終25名の参加での開催。金・銀・銅賞(全国へ推薦)のほか、審査員特別賞3名を選出。各受賞者に賞状、全国推薦者には参加旅費として3万円の副賞を贈呈。

■審査員 審査員長 久野浩志(久野浩志建築設計事務所)
審査員 佐藤潤子(キタバ・ランドスケープ)
ゲスト審査員 佐藤充(SATO+ ARCHITECTS)

■審査結果

金賞「風景に立つ」 大西 蘭々(北海道科学大学) →全国推薦

銀賞「エデンの雑草」 白蓋 裕一(北海道科学大学) →全国推薦

銅賞「よむ」 小飼 かのん(北海道芸術デザイン専門学校) →全国推薦

〈審査委員特別賞〉

久野浩志賞「ANCHOR」 尚 美恵(北海道大学)

佐藤潤子賞「いつだってから騒ぎ」 吉田 璃子(北海学園大学)

佐藤充賞「PLANT IT GREEN -都市における開かれた高齢者住宅の提案-」 本持 憩(室蘭工業大学)



■支部建築家資格制度実務委員会

委員長 大田司（支部委員長）
副委員長 中藪則喜
委員 山之内裕一、澤康昌、中館誠治、船坂大樹

■登録建築家更新・再登録審査

2026年2月17日、申請内容の調査を支部資格制度実務委員会で行い、2025年3月27日に登録建築家の更新・再登録の認定評議会をWEBにて行いました。

今回の更新者は北海道支部全体で17名です。細則9条1、9条2、9条3で更新が承認されました。再登録については3名です。細則10条1項による再登録で承認されました。

■登録建築家の新規認定審査

今年度は新規の申請者についてはありませんでした。

■新資格制度を推進する特別委員会、その後の動きについて意見交換

- ・新しくなる制度では専兼がなくなるようだが、弁護士会の紛争処理の経験からは、設計と施工が同一となった企業での相談件数が多い傾向にある。
- ・教育要件の5年が新設するJAPANアーキテクトになるための大きなハードルとなるのではないか。大学教育のカリキュラムを薬学系大学が4年から6年になったように、組み替えていく方向性もある。（そういう動きもあった）
- ・一級建築士のありたかも、同時に考えていく必要がある。JAPANアーキテクトの要件を一級建築士側で担保できるのであれば、新しい表示制度は不要になる。
- ・上記については国側も、国際化への意識も高まってきており、一級建築士のありかたも模索している状況と聞いている。
- ・類似の資格的なものが増えていくと、社会側からはとても分かりにくいものになってしまうおそれがある。
- ・新しい制度がライセンスではないとしたら、日本には建築家がないということになってしまわないか危惧する。国際的なプロジェクトでチーフになれないというようなことは起きないか。
- ・RAの骨格であった実務訓練制度の道筋がどうなるのか。
- ・今回の進展は大きな一歩と言えるので、調整事項も多岐にわたるが進めるのは良いのではないか。
- ・新しい制度上の名称はJAPANアーキテクトが相応しいのではないか。
- ・まだRAではないメンバーは、RAが存在するうちに、新しい制度への移行を行った方がスムーズとなるため、キャンペーンなど大きく広報していく必要がある。

■支部委員会の活動方針について

- ・新しい制度を策定する特別委員会等の進捗と合わせて、新資格制度の移行を検討する。
- ・上記を進める間にも、新しい制度への移行には有利であるため、登録建築家のプロモーションは継続する。

以上、2025年度の支部建築家資格制度実務委員会の活動報告です。

■2024年度 AIJ_JIA 合同活動報告会・ジョイントセミナー

日時：2025年6月10日（火）17:00

場所：日本建築家協会北海道支部 設計会館8階会議室（札幌市北区北6条西6丁目2番地）

1. AIJ-JIA 活動報告会 17:00～

AIJ：魚住昌広（支部長）

小澤丈夫、照井康穂、米花智紀（AIJ-JIA 合同委員会）+ 森傑（総務委員長）

JIA：小西彦仁（支部長）

川村弥恵子、赤坂真一郎、菅沼秀樹、大田司（JIA 支部役員）+ 米田浩志
（建築学術グループリーダー）

①AIJ 支部長からの報告（魚住昌広）

②JIA 支部長からの報告（小西彦仁）

③AIJ 大会、JIA 大会について

- ・2025年度日本建築学会大会（九州） 2025年9月9日（火）～12日（金）
- ・2025年度日本建築家協会大会（千葉） 2025年11月7日（金）～8日（土）

④今後の開催計画

- ・1回／年の予定、従来の報告会→懇親会の流れを踏襲
- ・開催時期は、AIJの活動報告がしやすい総会後の5月下旬～6月で調整
- ・毎年JIAの総会が6月中旬にあるのでこの時期は避ける
- ・ジョイントセミナー開催については適宜検討（隔年開催/JIA 幹事年）

2. ジョイントセミナー 18:00～

講師：小澤丈夫

テーマ：大学研究室で設計すること

－近年の北大建築デザイン学研究室でのリサーチアンドデザインの実践－

3. 懇親会 19:30～（14名）

AIJ：魚住昌広、照井康穂、米花智紀、森傑、小澤丈夫（5名）

JIA：小西彦仁、川村弥恵子、赤坂真一郎、菅沼秀樹、大田司、佐藤孝、圓山彬雄、伯谷薫、米田浩志（9名）

会場：大衆酒場ラスベガス 札幌駅前店（北海道札幌市北区北7条西7丁目6-9）

1) 令和7年度(2025年)高校生建築デザインコンクール

道内の建築を志す高校生の勉強の励みとし、将来の建築家・建築技術者となる若年層の育成と技術向上に寄与することを目的として、平成8年度(1996年度)から実施。道内の建築系学科が設置されている高等学校に在籍する生徒から夢のあるユニークなアイデアを募集するコンクールである。

■設計課題：地域をつなぐ公営住宅の集会所

～設計にあたっては、公営住宅の入居者だけでなく、周辺の地域住民も利用できるような集会所を設計・提案してください

- 建設地 滝川市で整備が進められている公営住宅団地内(空知町団地)
- 敷地面積 8,969.00m²のうち集会場の建設予定地は700m²
- 構造・規模 木造 平屋建て 延床面積 125m²程度(概ね110m²～140m²) 1棟
- 設計条件 風除室・集会室・便所を設けること、自然環境に配慮、駐車スペース(5台分程度)
- 応募資格 道内の高等学校に在籍する生徒で、個人または3名以下のグループ
- 提出図面 JIS規格A2版 横置き1枚片面に下記のすべてを表現すること

- ・作品タイトル
- ・設計主旨(300文字以内で簡潔に記入のこと)
- ・配置図(敷地寸法・方位明記)、平面図、立面図、断面図 縮尺1:50～1:150
- ・建物全体を表現するスケッチ(模型写真または透視図等)
- ・面積表

■応募作品：6校参加、全82作品の応募あり

(個人：74組、2名グループ：8組、3名グループ：3組 計93名)

■入選作品：最優秀作品賞 ～ 1作品

優秀作品賞 ～ 3作品

佳作 ～ 4作品

特別賞 ～ 2作品

■経過：募集要項配布 2025(令和7)年 6月 5日
作品受付 2025(令和7)年11月28日まで

選定委員会 2025(令和7)年12月15日

作品展示 2026(令和8)年 1月10日～1月11日(札幌駅前地下歩行空間)

■主催：北海道建設部住宅局住宅課

北海道建設部建築局建築整備課

北海道教育庁学校教育局高校教育課

公益社団法人 日本建築家協会北海道支部

一般社団法人 北海道建築士事務所協会

一般社団法人 北海道建築士会

2) 北のジュニア・オープンデスク

■今年度も昨年に続き開催することができた。参加者は以下の通り。

- ・北海道旭川工業高等学校より 2年生 2名
- ・北海道札幌国際情報高等学校より 2年生 1名
- ・研修期間：2026（令和8）年3月25日から3月27日

■意見交歓会・現場見学会

- ・開催場所：（仮称）札幌北1西10計画新築工事 現場事務所（札幌市中央区南1条西10丁目）
- ・見学会：（仮称）札幌北1西10計画新築工事
- ・参加者：オープンデスク参加者の3名、現場所長、教育グループリーダーの計5名
- ・開催日：2026（令和8）年3月31日

3) 本部教育委員会

■委員会はWEBにて実施（全5回）

- ・第1回目：2025年08月06日 18:00～20:00
- ・第2回目：2025年09月12日 18:00～20:00
- ・第3回目：2025年11月11日 18:00～20:00
- ・第4回目：2025年12月15日 18:00～20:00
- ・第5回目：2026年03月19日 18:00～20:00

■主な議題

- ・2025年度の本部教育委員会の構成・委員の任期について
- ・委員会のミッションおよび本部実施の教育関連事業について
- ・JIAフィールドトリップタスクフォースについて
- ・リフレッシュセミナーの報告と2025年度開催スケジュールについて
- ・2024年度オープンデスクの状況報告と2025年度実施について
- ・JIAスクールの各支部実施プログラムのCPD認定状況の確認
- ・今後においてCPD評議会と協力体制を組みどのように広報するかの方法を模索

■事業活動報告

- ・第25回リフレッシュセミナー2024（令和7年3月2日～4日 参加12名＋スタッフ3名）
- ・JIAフィールドトリップ2025（令和7年10月18日 熊本地震震災ミュージアムKIOKUの建築大賞受賞作品講演会＋建築見学会 参加18名）
- ・オープンデスク2024の報告（受入事務所数：77事務所、参加学生数：86名）
参加する学生が前年度より増加。
要因として、

- ①個人負担だった保険料がJIA負担となった
- ②応募・受入れシステム等の変更により手続きが緩和できた

これに伴って、JIA事務局の人件費が削減できたことも嬉しい結果である

- ・オープンデスク2025は集計中

■次年度の活動予定（2026年度）

- ・JIAフィールドトリップ2026（日本建築大賞作品：霞ヶ浦どうぶつとみんなのいえ）を予定
- ・今後のリフレッシュセミナー開催について、熱海リフレッシュセンターの営業終了に伴い、新たな会場の選定と開催の意義等について再検討・再構築すべく継続審議となっている
- ・オープンデスク2026は例年と同様に実施
- ・教育委員会のミッション遂行とその他の委員会とのコミュニケーション向上を図る

以上

■まちづくりグループ …メンバー ○米花、小倉、石塚、大杉、久保田、櫻井、山本、野村

1：支部活動特に活動なし

2：北海道福祉のまちづくり推進連絡協議会

2025/11/20_令和7年度(2025年度)北海道福祉のまちづくり推進連絡協議会(欠席:米花)

■全国まちづくり会議メンバー:○米花

1：定例会議全8回開催:主に今年度のイベント準備について協議

2：イベント

2025/10/3_JIA マンス:JIA まちづくり会議 zoom ウェビナー(参加:米花)

2025/11/7_まちづくりワークショップ企画 まちづくりワークショップ

「まち歩き千葉の「たから」と「あら」を考え、提案しよう！」

講師:田島則之先生(千葉工業大学准教授)(参加:米花)

■みどり野きた住まいるヴィレッジワーキンググループ

…メンバー ○照井、菅沼、小倉、弘田、米花、野村

(1)きた住まいるヴィレッジの各事業者の取組に係る調整業務 及び 住宅建設に係るユーザーの相談対応業務

(3)ゼロカーボンヴィレッジの各事業者の取組に係る調整業務 及び 住宅建設に係るユーザーの相談対応業務

事業者が行う住宅の設計・施工や展示等の内容がきた住まいるヴィレッジ/ゼロカーボンヴィレッジ事業全般の方針及び内容に基づくものとするため、各事業者と計画内容の調整を行うほか、住宅の建設を検討し、かつ住宅設計・施工事業者を選定する前のユーザー(道外も想定される)に対して、住宅づくり全般に関する相談対応を行う。

■各事業者の取組に係る調整の実施状況

(1)みどり野きた住まいるヴィレッジ関連 (3)ゼロカーボンヴィレッジ関連

区分	日時	会議名	場所	出席者						内容
				照井	菅沼	小倉	弘田	米花	野村	
(1)+(3)	2025/6/25	道庁・JIA打合せ	道庁		●	●		●	●	住宅販売がなかなか進まない状況を受け、ゼロカーボンv及びきた住まいるvの事業内容変更について協議
(1)	2025/7/4	JIA打合せ	Zoom	●	●	●	●		●	隣地利用ルールのJIA提案についての協議など
(1)	2025/7/8	定例会	緑苑ビル+Zoom	●	●		●			1 みどり野きた住まいるヴィレッジの今後について →西側ブロックを凍結し東側ブロック等を優先販売 2 隣地活用のルールについて →JIAで検討した改訂案を採用する 3 ヴィレッジにおける住民交流イベントの開催について →9/6にオープンヴィレッジを開催 4 その他(住宅フェア、現場シートノベルティ貸し出し、オープンハウス情報掲載)
(3)	2025/7/8	定例会	緑苑ビル+Zoom	●	●		●			1 みどり野ゼロカーボンヴィレッジの今後について →Aブロックを凍結しBブロックの発売を目指す →モデルハウスでの参加を可とする 2 建築形式での参加について →建築形式での参加ができるよう要綱等を改正 3 移住フェアin東京でのPRについて 4 現地相談会の開催について 5 その他(住宅フェア、現場シートノベルティ貸し出しオープンハウス情報掲載)
(1)	2025/8/27	道庁・JIA打合せ	道庁				●			デザインルールindex判のまとめ方について (編集担当登尾氏同席)
(1)+(3)	2025/8/23 ~9/23	住まいと暮らしの相談会	南幌町			●				9/20(土)AM、南幌町ふるさと物産館「ビューロー」会議室にて移住希望者への対応をおこないました。 JIAとしてヴィレッジの企画・ルールの説明、事業者としてモデルプランの説明をおこないました。
(1)+(3)	2025/10/17-18	北海道移住・交流フェア	東京都産業貿易センター				●	●		※別紙報告内容による

■住宅建設に係るユーザーの相談対応状況

きた住まいるヴィレッジ、ゼロカーボンヴィレッジ 共に今期の相談はありませんでした。

(2) きた住まいるヴィレッジの区画購入検討者等向け資料の作成

きた住まいるヴィレッジのコンセプトを守ったまちづくりを進めるために、デザインルールや住まい方のルールについて、区画購入検討者等に説明する必要がある。その際に各団体が共通の説明ができるよう説明資料の作成を行う

■デザインルール INDEX (2025 年度改訂版)

・今年度新たに検討した下記ルールについても記載

①建築物・工作物を建設する場合 ②L形3区画敷地における2区画にまたがる住宅の配置

・A4版裏表1枚にまとめ、各団体共通で利用しやすいように作成。

・要綱に添付している「デザインルール本編」についても、追加されたルールを追記し修正を行った。

みどり豊かな住まいるヴィレッジ
クオリティ・ファーストを支える **デザインルール INDEX** *Design Rule* 2025年度改訂版

ライフスタイル 小さく豊かに暮らす		まちづくり このまちで暮らす		住宅のイメージ 長く、ていねいに暮らす					
<p>千鳥配置</p> <p>住宅は1区画おきに配置することを基本として、ゆっかりとした秩序ある街並みを保つ。敷地境界からの壁面突出距離1mを確保する</p> 		<p>敷地の活用</p> <p>千鳥配置によってできる閑地(1区画分)を人の集いや駐、共用の場に活用するなど、豊かに暮らしを提案。閑地に建設可能な建築物・工作物およびL形3区画敷地の住宅配置のルールは以下(1)および(2)の通りとする</p> <p>(1)建築物・工作物を建設する場合 ヴィレッジ内の景観を良好に保つため、住宅と閑地のとれたデザインとする</p> <p>用途：物置(亜小屋・東屋を含む) 道路境界線からの離れ：3m以上 構造：木造 外装材：地域材 (地域資源から生産された材料 [木材や石材、レンガ、鉄金等]) 床面積：合計7㎡以下 勾配屋根の場合の最高高さ： 水下側の軒先高さ3m以下 降層屋根の場合の最高高さ：3m以下 その他：住宅同様にデザインレビューを受ける</p> 		<p>住宅性能</p> <p>以下の性能を満たすことを基本とする(※あるいは、55以上を目標とする)</p> <p>断熱性能：U値 0.34以下 一次エネルギー消費量等級：等級6 耐震等級：等級2 高齢者等配慮対策等級：等級3 (ただし、支那の出入口の扉扉に伴う規定は除く) 劣化対策等級：等級3 気密性能：C値1.0cm²/㎡以下 (C値：相当気密等級) 維持管理対策等級：等級3</p> <p>※気密性能以外は、住宅性能評価制度における評価方法基準(平成15年国土交通省告示第1347号)に基づく</p>					
<p>土間空間</p> <p>外壁「まち」と連続する玄関に、さまざまな作業や活動に活用できる広めの土間空間を設ける</p> 		<p>内・外の空間のつながり・広がり</p> <p>屋内～半屋外～屋外の一体なつながりや、実際の天井高さ以上の高さを誇る空間構成・仕掛け(天窓)を設け、テラスやデッキと室内の対峙レベルにするなど</p> 		<p>内装や構造材に地域材</p> <p>地域資源から生産された材料(木材や石材、レンガ、ブロックなどを構造材や床・天井などの内装仕上げに利用)</p> 		<p>暖房設備</p> <p>メイン暖房として床下換気暖房方式(バスシブ換気方式)などへの取り込み、薪ストーブの併用など</p> 			
<p>外壁に地域材</p> <p>地域資源から生産された材料(木材や石材、レンガなど)を外壁などの仕上げに利用</p> 		<p>開放感のある断面構成</p> <p>間仕切り壁や建具の少ない、上下階にわたって開放的な居室空間の構成(高い天井高さによる空間高差を小さく)</p> 		<p>動線</p> <p>広がりを感じられる回遊動線、キッチンを中心としたコンパクトな動線、内外をつなぐ通り抜け動線などに配慮</p> 		<p>可変の備え</p> <p>将来において、簡単なアレンジ(間仕切り壁、ドアの追加、扉取付仕切りなど)や増設を可能とする設計</p> 		<p>日射遮蔽・日射調整</p> <p>室内温度上昇(特に夏場)をもちょう日射を遮る庇や深い軒を設ける(日射調整可能な外付けブラインドなども有効)</p> 	
<p>無階層屋根</p> <p>暑い空気を快適に過ごせるよう、雨かきの軽減や安全に配慮(屋根材にシングル材やスチールパネなどを採用)</p> 		<p>テラス・デッキ(半屋外空間)</p> <p>外壁が気持よく、いねいに活用できるテラスやデッキを室内から連続するよう設ける(屋根や高い軒・庇と組み合わせることで半屋外空間としての活用幅が広がる)</p> 		<p>外部物置</p> <p>ヴィレッジ内の景観を良好に保つため、敷地内の物置や荷置き場も住宅と調和のとれたデザインにする</p> 		<p>外観計画(街並み)</p> <p>プライバシーを顧みずに通りに対して適度に開き、建物配置と敷地との組み合わせにより、各建物から見える量感や色・質感への日射、街並みの統一感に配慮</p> 		<p>屋根・カーポート</p> <p>住宅と統一感のあるデザインで、雨や雪の日も安心して住宅へアプローチできる動線確保(屋根内の高さを確保)</p> 	
<p>暮らしのクオリティを保つため、ルールを守りましょう。 新たな建築物や工作物が必要な場合は、住宅の設計者に相談しましょう。</p>									

(4) 移住フェア等への出展

南幌町が参加する移住フェア等に参加し、みどり野ゼロカーボンヴィレッジの取組を専門的な視点からPRを行う。

■北海道移住・交流フェア 参加報告

期間：2025年10月17日～2025年10月18日

参加者：弘田亨一設計事務所 弘田亨一、ノムアーキテクト 野村 和也

【イベント概要】

開催日時：2025年10月17日（金）18：00～20：30

2025年10月18日（土）10：30～17：00

会場：東京都立産業貿易センター台東館5階（〒111-0033 東京都台東区花川戸2-6-5）

出展者数：101 出展者 111 ブース（77 市町村 +11 企業 +13 団体）

主催：一般社団法人北海道移住交流促進協議会

共催：北海道

ブース名：北海道の住まい相談（来訪者数：18組）

ブースにて北方型住宅の説明や南幌町での取り組みについて来訪者に説明をしつつ、移住を検討されている方が抱える北海道の暮らしへの不安等（特に雪や寒さ）の相談にお答えするような内容となりました。広い意味で捉えることができるブース名のためか、賃貸情報についてや、住宅ローンについての相談など、様々な内容がありましたが、南幌町と隣りのブースに手配いただいたこともあり、当ブースへの来訪者のうちで戸建てでの移住を意識されている方を南幌町のブースへ促したり、反対に南幌町のブースから設計へのアプローチの方法についての質疑などもありました。

北海道への移住を検討しているものの、居住地を定めかねている方に対して、南幌町での本モデル団地の取り組みを移住検討者に対して紹介できた点は少なからずプラスになったのではないかと思います。（文責：野村）

(5) その他地域展開への取組に係る検討の支援業務

敷地や住宅の設計・施工に係るコンセプト等の検討に際して、これまでの南幌町における「きた住まいるヴィレッジ」や「ゼロカーボンヴィレッジ」での取組等を踏まえたものとするため、打合せ等に参加し、検討の支援を行う。

■厚真町ゼロカーボンヴィレッジへの支援

2025年5月 厚真町まちづくり推進課政策推進グループ江川主幹より JIA 菅沼に連絡があり、厚真町ゼロカーボンヴィレッジ内で実施している

「買取型子育て支援住宅整備事業 公募型プロポーザル」について

JIA からも是非プロポに参加してほしい旨の連絡を頂いた。

本件は、DB プロポであったことから、JIA 建築家は施工者と組む必要があったため、厚真町により地元施工者とのマッチングの機会をセットして頂くこととなった。

JIA きた住まいるヴィレッジ WG のメンバーである野村氏を含め3名の建築家がマッチングに参加したが、プロポの条件に合致した設計施工チームを形成するまでには至らなかった。

プロポーザルの仕組みづくりから、何らかの支援ができればよかったと思われる。